

## 1.9 岩瀬文庫（国語分野）

### (1) 研究開発の課題（概要）

岩瀬文庫は、明治41年西尾市の豪商岩瀬弥助が私財を投じ、独力で設立した私立図書館が始まりで、平成20年には創立100周年を迎えた、歴史を持つ文庫である。重要文化財の指定を受けた資料をはじめ、古典籍から近代の図書、日本ばかりでなく中国や朝鮮のものまで、蔵書数8万点余、孤本、稀覯本も多く、最初から図書館の開設を目的として蔵書を購入したため、あらゆる分野の資料がそろっている。

昨年同様、今回のワークショップでも岩瀬文庫所蔵の写本、木版本の実物にふれ、わが国の書籍文化の歴史について学び、古典籍についての理解を深めることを目標とした。文庫の学芸員、神尾愛子先生に詳しい解説をお願いした。終了後、参加者にアンケートを実施した。

### (2) 仮説（ねらい、目標）

- ・わが国の書籍文化の歴史について理解する。
- ・本の装丁（卷子本、折り本、粘葉装など）について学び、古典籍を実際に手にとって閲覧することによって、当時の書物のあり方を理解する。
- ・蔵書を保護するための中性紙保存箱を作成することによって、書物を大切にしてきた先人の思いを理解する。

### (3) 研究の方法・内容

ア 対象生徒	希望者	17名	1年	男子5名	女子6名	（計11名）
			2年	男子1名	女子3名	（計4名）
			3年	男子0名	女子4名	（計4名）

イ 実施日程 平成24年8月10日（金）

ウ 実施場所 西尾市岩瀬文庫（西尾市亀沢町480）

#### エ 実施内容

##### (ア) 岩瀬文庫について

- a DVD鑑賞…岩瀬文庫の歴史について
- b 蔵書について解説（学芸員 神尾愛子先生）

##### (イ) 常設展の解説と見学

- a 日本の書物の文化と歴史について、展示物を見ながら学芸員の先生に解説をしていただいた。
- b 卷子本、折り本、粘葉装本など、様々な装丁の古典籍の扱い方について、レプリカを用いて学び、実際に扱わせていただいた。

##### (ロ) 古典籍の閲覧

午後は、事前に生徒が閲覧を希望していた古典籍を拝見させていただいた。『源氏物語』『伊勢物語』『本草図説』『百鬼夜行之図』など、直接手にとり、見させていただいた。



書籍保存箱の作成

##### (ハ) 書籍保存箱の作成

岩瀬文庫では、ボランティアの方々の手によって、書籍を保護するための中性紙保存箱を作成し、収納するということが行われている。今回はボランティアの方からご指導を受け、その体験をさせていただいた。

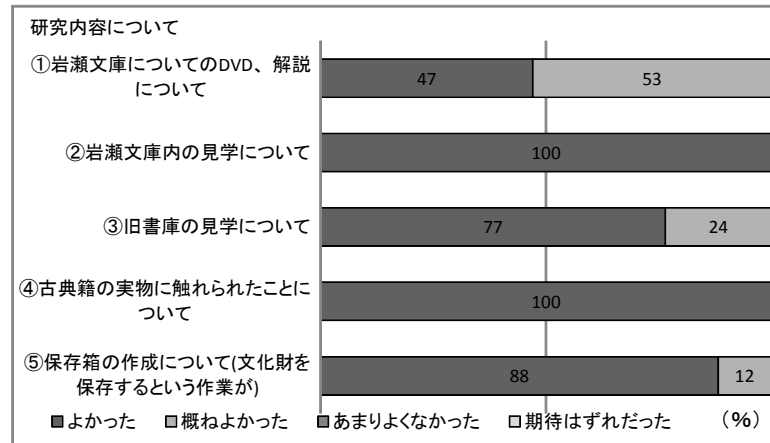
##### (ニ) 旧書庫の見学

大正時代に建てられたレンガ造りの岩瀬文庫旧書庫（国登録文化財）の内部見学をさせていただいた。通常は非公開である。

##### (ホ) 名古屋大学教授 塩村 耕 先生の書誌学に関するお話

#### (4) 検証（結果と反省）

##### ア アンケートの結果



##### イ 生徒の感想

- ・古書の扱いについて知らなかったことが多く、また、実際に触れてみてその時代を垣間見ることができるようで、とても良い体験が出来たと思う。
- ・今回の研修で古い書物や古典文学について、より深く興味を持つことが出来た。今日の体験を学習や進路の検討に役立てていきたいと思う。
- ・古典籍の実物に触れられて感動した。もっとじっくり長い時間できればよかったと思った。名大の先生のお話も大変良かった。
- ・今回の SSH で行くことが決まるまで、岩瀬文庫を知らなかった。とても歴史のある図書館だということがわかった。
- ・もっと古典籍の実物に触れる時間を増やして欲しい。全部じっくり見たかった。
- ・ボランティアの方が親切に説明してくれ、大学の塩村教授の話に興味を持てたので良かった。

##### ウ 今後の実施に向けて

- ・生徒のアンケート、感想からも大変有意義な研修であったと考える。次年度も可能であれば継続したい。
- ・〔旧書庫の見学・大学の先生のお話〕〔古典籍に触れる〕〔保存箱の作成〕の3つの研修内容を A・B 班（1年生）C 班（3年生＋2年生）が順繰りに回るといった形をとった。さまざまな事柄に触れられたのは良かった。
- ・昨年、行き帰りの移動時間が思った以上にかかったため、出発時間を早めたのが奏功し、予定通り日程を終えることができた。
- ・非常に暑い時期に行うので、熱中症対策に万全を期す必要がある。